

世界景気の回復とともに期待される 資源国通貨の上昇

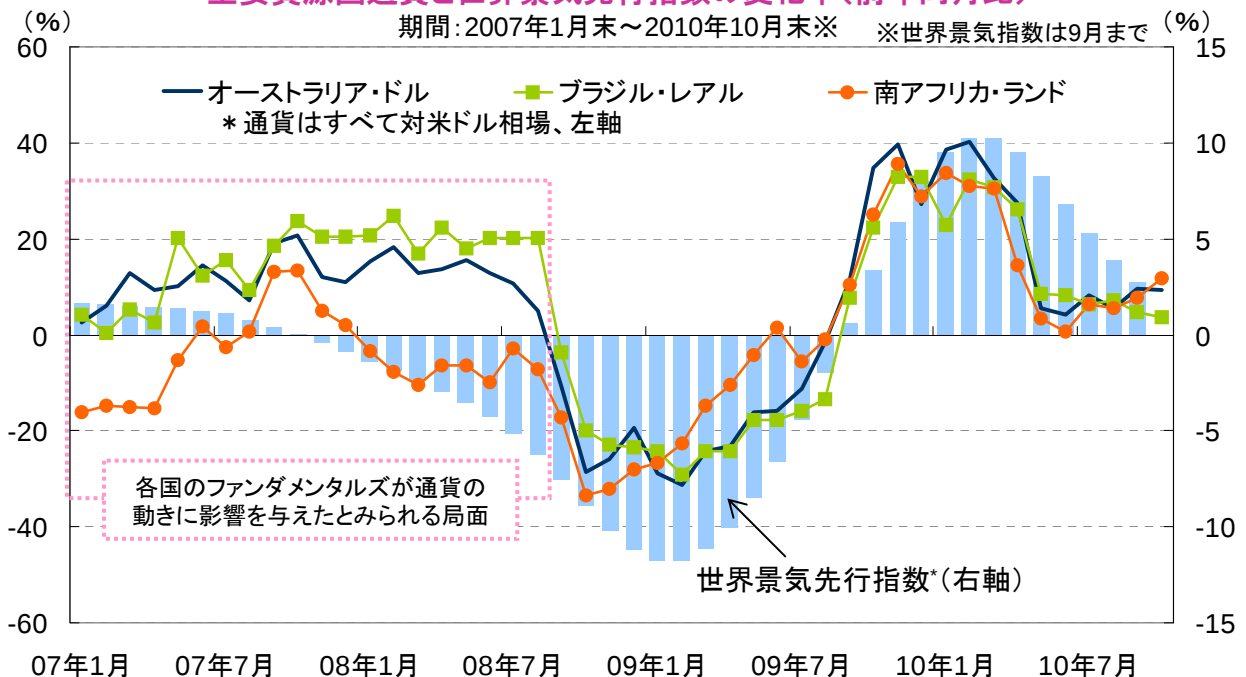
資源国通貨は、2008年以降の世界的な景気後退局面において、各国のファンダメンタルズの良し悪しにかかわらず、米ドルに対し下落基調を強めました。反対に、2009年以降の世界的な景気回復局面では、各国の回復度合いに差はあったものの、全般的に米ドルに対して上昇傾向となりました。

こうした背景には、世界景気の動向によって、①資源国の経済が影響を受けるとみられる商品価格が変動しやすいこと、②投資家のリスク許容度が拡大・縮小すること、などがあると考えられます。例えば、世界景気の回復によって、資源需要が世界的に高まるとの見方が広がれば、商品価格が上昇しやすく、資源国通貨も買われやすいといえます。また、世界景気の回復によって、投資家のリスク許容度が高まれば、金利の高い国の通貨への資金流入が起こりやすく、相対的に高金利である資源国通貨が選好されやすいと考えられます。

最近の世界景気は、昨年からの急回復の反動などで成長速度が鈍化傾向にあるうえ、足元で中国の金融引き締めや欧州の財政問題に対する懸念もあり、先行きに対し楽観視はできません。しかしながら、米雇用関連統計などの経済指標が改善傾向にあることから、米国景気の回復期待が高まると同時に、世界景気の堅調さが維持されるという見方も広がっていることは、資源国通貨を下支える要因として注目されます。

なお、一口に資源国通貨といっても、主力の鉱産物やその輸出状況は様々であり、また、金融政策や景気動向にも違いがあります。そのため、世界経済の安定化が進むにつれ、各国のファンダメンタルズ(経済の基礎的要件)を反映した通貨の選別が進む可能性があると考えられます。

主要資源国通貨と世界景気先行指数の変化率(前年同月比)



(OECDなど信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成) *世界景気先行指数は、OECD景気先行指数 ※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。